

CSW インターン募集

2016 年国連女性の地位委員会(CSW)へ 派遣する女性インターン募集



特定非営利活動法人日本BPW連合会

日本BPW連合会では、国際問題に関心を持つ大学生または30歳以下の女性を対象に、毎年2月から3月にかけて、ニューヨークの国連本部で開催される、女性の地位委員会(CSW)に派遣するインターンを募集しています。これは、日本BPW連合会が加盟する BPW International(BPWI)が、国連の「諮問的地位」を有する団体であることにより、初めて可能になるもので、2003年に第1回のインターン派遣が行われて以来、今回は第13回の派遣となります。

2016 年派遣インターン募集要項

募集目的 国際問題・国連問題・女性問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援する目的で行われるもので、国連本部内及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。

毎回主要テーマが設定されますが、2016年第60回女性の地位委員会のテーマは未確定で、2015年第59回のテーマ「1995年に北京で開催された第4回国連女性会議で採択された北京宣言と北京行動綱領の成果と課題についての点検」の上にて、12月に決定の予定です。

期 間 2016年第60回国連女性の地位委員会日程も未確定ですが、例年通り3月第1週の月曜(7日)から2週間の日程で開催される見込みです。事前のイベントなどの都合で、開始前の土曜日(5日)に到着するのが好ましく、滞在は10日以上を期待します。

★テーマ・日程は、発表され次第日本BPW連合会のホームページ <http://www.bpw-japan.jp> にアップ致します。

- 6つの特典**
- CSWの会議と平行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べるすることができます。(一部有料)
 - BPW インターナショナル主催の各種活動(ワークショップ、交流会、夕食会など)に参加して、各国のBPWIメンバーと交流ができます(有料部分はBPW一部負担)。
 - 国連やCSWに関する説明や解説を事前あるいは現地で受けることができます。
 - 日本政府代表部がおこなう公式説明会に参加できます。
 - 世界各国の女性団体の方と交流できます。
 - 国際関係・女性問題関係を専攻する女子学生には、論文作成などのための最前線の資料が入手できます。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ大学生、または30歳以下の女性、若干名。
帰国後、報告書を日本BPW連合会に提出していただきます。また、ヤングBPWのメンバーとしてBPWの活動に参加していただきます。

費 用 航空運賃・宿泊費・生活費は自己負担。海外旅行保険も自己負担になりますが必ずご加入ください。但し、登録料及びBPWが行うイベント(夕食会他)への参加費の一部はBPWが負担します。

応募方法 E-mailにて、応募必要事項記載の上、小論文(応募動機および国際問題・女性問題・国連に関するあなたの意見を日本語および英語で述べて下さい。「日本語で1000字前後、英語で500words以内」を添付の上送信。

問い合わせ csw2016@bpw-japan.jp (日本BPW連合会インターン担当) 件名「UN-CSW インターン」と記載してください。

応募〆切 2015年10月20日(火)

結果発表 2015年11月10日(火)

BPWとは? Business and Professional Womenの略で、日本BPW連合会は、NPOとして、職業を持つ女性たちの地位向上や、格差是正、そして女性の力による世界の紛争防止や、自然災害での被害削減をもとめて可能な開発と平和にむけて、国内及び国外の働く女性と共同して活動している女性団体です。日本BPW連合会が加盟するBPW Internationalは、国連の経済社会理事会の諮問機関として一般協議資格をもつ組織で、世界の100近い国と地域が加盟しています。

日本BPW連合会は1958年に創立。現在19の地域単位のクラブ・アソシエーツで構成され、各クラブは、BPWIの方針に添った統一テーマを基本に、独自の活動及び情報の交換や交流もおこなわれております。毎年5月または6月に、BPW全国大会を開催し、ヤングスピーチコンテスト最終選考大会や、働く女性に関するワークショップなどを行うほか、内閣府男女共同参画局との共催シンポジウムなどを実施しています。2009年9月に法人化し、特定非営利活動法人日本BPW連合会となりました。

問い合わせ & 応募先	E-mail	csw2016@bpw-japan.jp(日本 BPW 連合会インターン担当) 件名「UN-CSW インターン応募」と記載してください * お問い合わせ及び応募は上記 e-mail にて受付しております。
応募方法	応募メール への必須情報	氏名 / (ふりがな) 住所 〒 / 連絡先 電話 / メールアドレス 生年月日 19 年 月 日生 所 属/大学(学部・専攻)又は職業 履歴 高校卒業以後の履歴(学歴・職歴等) 滞在可能期間(予定) 備考 応募にあたって、疑問点などあれば、お書き下さい。 応募メール本文または、添付ファイルに記載願います
	添付書類	小論文「応募動機及び国際問題、または女性問題、あるいは国連に関する意見」 日本語で 1000 字前後、英語で 500words 以内 ※日本語・英語の両方の論文を (word あるいは text ファイルでメールに添付) して 提出して下さい。
参考		募集要領・メールフォームは、下記にも掲載します http://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html
		BPW の詳細についてお知りになりたい方は、こちらのホームページをご覧ください http://www.bpw-japan.jp (日本 BPW 連合会) www.bpw-international.org (BPW International)

CSW-インターン参加者の声 (2015 年 12 期生報告書からの一部抜粋)

報告書は http://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html#csw_report をご覧ください

■この CSW を通して一番印象に残ったのは、「ジェンダー問題と男性」という視点であった。初日に参加したデモ行進では「women's issue is not only women's issue. Women's issue is men's issue.」という看板を持つ人を見かけた。そのデモ行進の参加者は男性や若い男女が多く日本とは何かが違う！と感じた。同じような内容を Consultation でも聞き、「Men」や「Boys」という言葉の入るイベントがたくさん行われていた。

■国際女性評議会などが開催したパラレルイベントでは、女性の政治参加に関する各国の現状や取り組みが紹介された。フランスや韓国など、近年クォータ制を導入した国では、女性議員の割合が急速に伸びている一方、アメリカ、中国、そして日本という世界の三大経済大国において特に女性の政治参加が低いことが問題としてあげられた。こうした現状をふまえ、日本のようにクォータ制がまだ導入されていない国で、今後この制度を導入するにはどのようなことをしていけばよいのか、登壇者に質問した。これに対して、まず SNS などのメディアを活用してクォータ制度を話題にし、活動のためのネットワークをつくり国内の議論を広げていくこと、そして、国連をはじめとする国際的な機関で締結された法律や取り決めに具体的な根拠として、女性の政治参加の必要性を訴えていくことが重要であるというお答えをいただいた。

■それぞれが高い関心を持って CSW へ参加しており、とくに同世代の存在を知って、この経験を自分だけのもので終わらせたくはないと感じた。世界の同世代にインスパイアされたように、今度は自分自身が起点となって、女性問題に関心を持ってもらえるよう、同世代をインスパイアしていかなければならない。

■CSW59 では女性の地位向上に関する成果や課題が活発に議論された。中でも自分と同じくらいの年代が多く参加していることにとっても衝撃を受けた。彼、彼女らは女性問題の被害者として、研究者として参加していた。被害者として「世界中の人に伝えなくてはならない」という意識をしっかりと持っている人や、女性問題ジェンダー問題に高い問題意識を持ち自分の団体がしていることを発表している若者を間近で見て、自分との意識の違いやギャップにショックを受けた。特に日本では若い世代が社会にあまり目を向けず、問題意識は低い。しかし若い世代こそ当事者であり問題と向き合っていかなければならないと思った。

■インターンの 2 週間、多くのイベントに参加し、たくさんの驚きや感動に出会いました。その中でも私が衝撃を受けたのは、日本人と比べて、世界の人々、特に若者が女性問題に対してはるかに強い関心を持っているということである。

インターンのメンバーが最終的に出した結論は、若者の生き方選択を狭めるステレオタイプにとらわれず、最終的にはだれもが、自分のため、そして人のために自由に選択できる世界を作らなければいけないということであった。これは理想論かもしれないが、私は CSW に参加したことによって、未来で起こるかもしれない問題を見つめること、現状を改善するために考え続けること、現状を変えるのは無理だと思って、「あたりまえ」に逃げないことを学んだ。同時に、先輩方が理想を求め、たゆまぬ努力を続けたことによって、社会が変わったのだということを受けて、私たちはこれから、少しでも女性や男性にとって、やさしく過ごしやすい社会を作るための努力をしていかなければならないと強く感じた。その初めの一步として、インターンとして共に学んだメンバーと協力して、私たちが「あたりまえ」と思っていることに対し、いつも疑問を持ちながら見つめなおしていきたいと考えている。この CSW に参加して学んだことを胸に、これからも私自身が大きく変わるために一歩ずつを踏み出していきたいと思う。会議の間、私を捕えてやまなかったあの熱い感動とともに！